

Ⅱ. ロシア国家統計の150年, ロシア連邦国家統計の75年

『統計通報』誌1993年第5号

〔佐藤智秋訳〕

【当論文（概史）は次の著作による。ベ・ゲ・プロシコ、イ・イ・エリセエヴァ著『統計史』モスクワ、財政と統計、1990年。テ・ヴェ・リャブシキン、ヴェ・エム・シムチェラ、イエ・ア・マシヒン著『ソ連における統計学の発展』モスクワ、ナウカ、1985年。『統計通報』誌およびその他資料】

（訳者注：当訳は、『統計通報』誌1993年第5号 pp. 3～21の部分（pp. 3～19）訳）

現代の解釈で『統計学』という言葉を最初に用いたのはドイツの学者ゴットフリート・アッヘンワール（1719-1772）である。すべての文化人に必要とされる知識全体がこの言葉で理解された。

統計の起源自体は太古にさかのぼる。調査に関する記述は聖書のなかにも見え見られる。紀元前28世紀の古代中国では、人口、性別分布、年齢、土地の収益性に関する情報が集められた。

10-12世紀のロシアでは課税に関連する各種情報の収集が行われていた。

社会生活のあらゆる側面に触れたピョートル大帝の改革は、充実した正確な集計データを必要とした。同じ時期に、人口の通常の調査が出来上り、これは教会による婚姻、出生、死亡の登録の実施である。パンの価格調査、新設の作業場・工場の登録、都市および都市人口、貿易の調査などが実施され、作業場・工場の労働者の調査、その他の調査・統計作業が行われる。

18世紀前半は、作業の方式・期間、情報量などに関する観察、計画の作成面で発展が特に目立つ。部分調査の使用も始まる。

18世紀後半は、調査作業がもっぱら行動のための質問から社会経済生活に関するデータの収集へ方向転換する（これはその後、『認識統計』の名称を得た）。

1802年の省の設置とともに、部門別調査データの収集がそれに委ねられる。対応して、統計作業体系が変更され、県の報告が再開される（人口と居住地、農業、工業に関するデータ）。

1811年には、公式の政府統計センターである警察省管轄の統計部が設置される。

残念ながら、この時期に収集されるデータの信頼性はまだまだ不十分なところが多かった。データ収集者自身の未熟さがこの原因であった（行政警察機構が統計機関の役割を果たした）。ベ・ア・ヴァゼムスキー公の『昔の手帳』には次のようなことが書かれている。

「世紀のはじめ、統計情報の収集が始まったころ、ある地方政府がある郡にそのような情報を渡すように要求した。郡警察署長の返答はこうであった。この2年間、すなわち、今の任地に任命されて以来、おかげさまで郡では統計になるような出来事は何も聞かれません。でも、もしそのような噂が上官のお耳に達したとすれば、それは私に対する上官の評価が下がることを欲する私を妬むものや敵の悪意によるものにすぎないのでありまして、そのような統計による無実の罪をどうか免れますよう頭を低くしてこうものであります。」

科学アカデミーに統計学講座が設置され、大学や中学校においてこの科目の教授が行われる。社会生活のあらゆる進展により、統計への関心がますます高められる。

たとえば、カ・ゲルマンは次のように述べた。「如何なる生産活動も、国家経済の原理に関する正確な知識を用いずには、国民の富を守ったり増したりするための有益な施設や法律をつくることはできない。」カ・ゲルマンの見解によれば、この原理とは「統計情報の結論である。」(『サンクト・ペテルブルグ(С П Б)統計雑誌』第1巻, p.74,1806)まさに、カ・ゲルマンが、ロシアの文献において初めて統計理論の諸問題に関し問題を提起したのである。

1843年は、臨時統計部の設置の年であり、1852年には、それは統計委員会に改組され、1858年には、委員会は中央統計委員会(Ц С К)の地位を得る。

しかし、この際、中央統計委員会は内務省の管轄下にとどまり、主に人口統計の問題に携わることになる。1863年には、政府統計の研究機関—統計会議(助言の機能を備える)—が設立され、22年にわたり、ペ・ペ・セメノフ(セメノフ・テンジャンスキー)が指導した。1897年には、彼の指導のもと最初の国勢調査が実施された。前世紀の終りと今世紀の初めには農家、土地、農機具の各戸別調査、軍馬の調査などが行われる。

ゼムストヴォ(地方自治会)統計は、誇張なしにユニークな事業であり、1次データの組織や収集に、そして何よりもデータの加工の緻密さに大きく貢献した。

その誠実さと熱意がゼムストヴォ統計の特徴をなした。まさに、統計そして社会は、その農家に関する並外れて豊富な資料に、また組み合わせられ分類された表に感謝するのである。

ヴェ・イ・レーニンによるゼムストヴォ統計の評価をあげておこう。「ドイツの政府統計は、広がりや充実ぶり、情報の均一さと正確さ、その加工と公表の迅速さにおいてロシアの政府統計に勝るのに対し、われわれのゼムストヴォ統計は、個々のデータの驚くべき充実ぶりとその加工の緻密さにおいてヨーロッパの部分的なアンケートや調査に勝る。ロシアのゼムストヴォ統計はかなり以前からすでに各戸別調査も、各種の分類された表も、われわれが語ったところの組み合わせられた表も導入していた。ヨーロッパ人がわれわれのゼムストヴォ統計を直に知ることがあれば、おそらく、社会統計全般を発展させる強力なきっかけになるであろう。」(レーニン全集, 第5巻, p.213)もちろん、ゼムストヴォ統計の発展は、エヌ・エフ・アンネンスキー(1843—1912)、ヴェ・イ・オルロフ(1848—18

85), ペ・ペ・チュルヴィンスキー (1849-1931), ヴェ・イエ・ヴァルザル (1851-1940), エス・ア・ハリゾメノフ (1854-1917), エフ・ア・シェルピナ (1849-1936), ア・ペ・シリケヴィチ (1849-1909), エフ・エフ・エリスマン (1842-1915) の名前と結び付けられる。

ニージニー・ノヴゴロドのゼムストヴォの著名な活動家であるエヌ・エフ・アンネンスキーが強調したように、「ゼムストヴォは、土地やその他の不動産の価値や収益性に関する問題を研究しなければならないが・・・国民生活の経済的およびその他全般的な諸条件の研究といったより全般的な仕事、この部分的で補完的な仕事を見えなくし隠してしまった」(ベ・プロシコ・イ・エリセエヴァ著『統計史』モスクワ、財政と統計、1990、p.109)。

ゼムストヴォ統計は、データの収集と加工の方法論と方法の発展において大きな役割を演じた。ゼムストヴォ統計は、1917年まで存続した。

10月革命後の時期は、統計にとってきわめて重要であった。もちろん、それには客観的な理由があった。内戦により破壊された国家、飢饉、深刻な資源不足は、統計の前にある課題の解決をかなり困難にした。その他の社会情勢による原因もあった。20年代の終りから30年代の初めにかけて、統計は権力側からのますます強まる弾圧を経験するようになった。中央統計局(ЦСУ)の初期の局長達、ペ・イ・ポポフ、ヴェ・ヴェ・オシンスキー、イ・ア・クラバーリの運命について詳しく言及することはしない。1人目は局長の職を解任され、イ・ア・クラバーリの名前は1937年の人口調査と結び付くが、彼は破壊分子とみなされ、クラバーリおよび多くの調査参加者が逮捕され、一掃された。1938年には、オシンスキーが「陰謀とスパイ活動」の嫌疑をかけられ、同じ運命にあう・・・。

1918年(7月25日)、人民委員会議(СНК)が国家統計に関する規定を承認する。ペ・イ・ポポフが最初の中央統計局長に任命されたのはまさにそのときであった。彼の前に持ち上がった課題は真に大きいものであった。なによりもまず、すべての統計の作業調整、地方の国家統計機関の設置、部門別統計作業の組織、中央統計局と庁の相互関係の問題、調査と検査の組織および実施、その他多くの課題である。組織の才に秀でた者だけがそのような作業対象をやりこなすことができたのであった。そしてまたしても、政治が統計に干渉する。その後の長い年月と同じように。

中央統計局が作成した1925/26年の穀物・飼料バランスをめぐる、党をあげての議論の過程で展開された激しい論争に関連し、ポポフは中央統計局の、しかも、絶対に筋の通った見解を擁護することになる。また、1924年には次のように述べている。「統計はその時々に見られる数字を与えることはできない。それは現実の客観的な研究のための資料を与えるものである。それは生活を反映する数字を与えるものである」(国立中央文書館(ИГАНХ СССР) ф.105, оп. 1, ед. хр. 51, л. 3-5)。

議論を終わらせたのは、全ソ連邦共産党(ВКП(б))第14回大会でのスターリンの政治報告であった(スターリン全集、第7巻、pp.329-330, 385)。翌日、ポポフはスター

リンに手紙で問いかけるが、それは中央統計局の作業に関するスターリンの主張の誤りを論証したものであった。手紙は次の言葉で終わる。「あなたの義務は、その同じ高い演壇から私の手紙を発表するか、あなたの主張は現実に一致しないということを言明することであり・・・」(国立中央文書館(ЦГАХХ) ф. 15, о п. 1, е д. х р. 72, л. 2)。

1923-1924年ソ連邦国民経済バランス(1926年に中央統計局公表)の作成は、統計において、わが国の統計だけではなく、重要な出来事になるが、その主要な研究者はポポフであった。これは世界初の国民経済バランスであった。

ポポフは次のように述べる。「ソビエトの統計は研究室を離れては機能しなく、その作業のやり方は、その知識を得ようとするすべてのものに知られており、作業は大勢の統計家の共同作業の結果である・・・統一された方法、統一プログラム、統一作業計画、これがソビエトの統計の特徴であり、その資料の良質さの源泉はここにある。

それを嘘といって非難するものは、根拠なく嘘呼ばわりする前に、この方法とプログラムを読むなり理解するなりすべきであり、これらは適宜公表される各説明書のなかで詳細に述べられている・・・。認識体系としての統計を、プログラムや計画なしに集められた何らかのものとは比べてはならず、一定の方法で集中された認識の道具を、資料の無体系的な収集と比べてはならない・・・」(国立中央文書館(ЦГАХХ) ф.105, о п. 1, е д. х р. 51, л. 2-3)。

1926年の初めに、ポポフは中央統計局長の職を解任される。

同年、ソ連邦中央統計局長にヴェ・ヴェ・オシンスキーが任命されるが、彼は教養高い人物で、組織者としても優れていた。1927年には、ソ連邦領内のすべての統計の調整、全連邦計画により規定される統計作業のすべての指導、統合、管理が委ねられた。統一された計画があったおかげで、すべての統計調査、データカードを登録し、不必要なものをカットする試みが実行された。オシンスキーの言葉によれば、そのことによって「方法論上の統計検閲」(『統計通報』1927年第2号p.24)を導入しようとする最初の試みがなされたのでは決してなく、それは違法な報告が増えるのを抑えるのが狙いだったのである。

統計作業の機械化に極めて熱心であったオシンスキーは、外国から計算機を購入する許可を人民委員会から得、同時に、全ロシア国民経済会議(ВСНХ)からは国内で単純な計算機の生産を組織する許可を得た。

1926年に、第1回ソ連邦国勢調査が行われる。同じ年には、実験統計・統計方法論研究所、農産物見積りのための専門家会議、工業製品・農業製品の需給見積りのための専門家会議が設置される。しかし、20年代の終わりには国内の社会政治情勢が変化し、このことが統計機関の活動へも影響する。1928年の中央統計局の定期的組織替えの際、オシンスキーは中央統計局長の職を解任される。1932年に、彼は再任されるが、それはソ連邦 Gosplan 管轄の中央国民経済調査局(ЦУНХУ)長であった(無学な者には不可解な措置である)。

1933-1935年の時期には、調査と報告を整備するための大事業が行われ、工業設備、都市公営事業、家畜、商業要員、小売網などの一連の重要な全連邦調査が組織される。オシンスキーは大規模な事業を行ったにもかかわらず、彼はまたも国民経済調査局を免職になる。

1935年から1937年まで国民経済調査局長を務め、1937年の全連邦国勢調査の組織者であったイ・ア・クラバーリについてはすでに述べた。1937年5月に彼は銃殺された。

ヴェ・エヌ・スタロフスキーは、14歳のときから統計に一身を捧げ、35年間(1940-1975)にわたり 国家統計を指導した。中央統計局長の職を務める彼の活動の出発は、データの収集・加工の面で、また目立った迅速性の引き上げに関して、統計機関の全作業プログラムの大々の変更を必要とした大祖国戦争の時期に当たった。人的・物的資源の動員、企業の東方への疎開、それらのすばやい稼働、これらはみな、調査によってのみ把握することができた。しかし、先行するすべての調査とは異なり、軍事上の調査は最大限の機動性(7日~15日以内)を要求した。統計はまだそのような期間を経験したことはなかった。戦時には、合わせて100以上の緊急調査が実施された。統計は見事にこの仕事をやり遂げたのであった。この作業すべてを指導したのがスタロフスキーであった。

彼の努力により、指数、安全性の理論分析、数理経済モデル、国勢調査の方法論と組織といった統計の重要問題に多くの発展をもたらされた。

中央統計局がゴスプランの機構から分離され、ソ連邦閣僚会議管轄の中央統計局(И Ц У С С С Р)という独立機関になった1948年は統計史上重要な年となった。

国内での調査と統計の指揮、国民経済や文化の発展のための国家計画の遂行過程を特徴づける信頼のおける科学的根拠のあるデータの作成、および政府への時宜にかなった提供、こういったことがソ連邦中央統計局の職務に加わった。長年のあいだ中断された統計データの公表、中央や地方での統計集の刊行が再開される。国民経済の発展に関する統計集(短いものやより大きなもの)が毎年出版されるようになった。『統計通報』誌の刊行が(1949年から)再開される。

1948年からは、ソ連邦中央統計局に科学技術会議が設置される(1951年以降、科学方法論会議)。

1957年における工業と建設の報告の中央統計局諸機関への集中は、統計の発展へ向けての大きな一歩であり、その後、国民経済の他の部門の報告も集中される。

州には計算センター(機械・計算ステーション)、行政地区には機械・計算ステーションがつくられるが、これはその後、国家統計の監督機能をも備え、統一された下級統計機関である地区情報計算ステーションになった。

1959年には、1960年1月1日時点の全連邦国勢調査、第2回国民経済総在庫調査および固定ファンド再評価、その他の大規模事業が実施される。統計科学も一層充実する。

1965-1990年の時期については、詳細に言及はしないが、読者は、大部分について、こ

の時期に生じたあらゆる変化の目撃者であろう。わが国の統計家の努力により、理論、方法論、実践の領域において多くのことがなされた。そして、これは、資金的・物質技術的資源が常に極めて不足するなかでの、また権力機構による弱まることのない統制圧力のもとでのことであった。

90年代の初頭は、質的に新たなロシア統計の発展段階である。経済改革全体、そして市場関係へ移行するという以前から切迫していた必要性は、市場経済の発展という要請に応じた、国際的実務で採用される調査・統計体系へのロシア連邦の移行という課題を提起する。おそらくこれ抜きには、世界の共同社会へロシアが加わることなどはまったく問題になりえないであろう。

最近、ロシア連邦の統計学者により、この方向での大規模な事業が行われてきた。1993年5月24日のロシア連邦最高会議幹部会会議において、その評価がなされたが、そこでは1992-1993年におけるロシア連邦国家統計委員会の活動に関して質疑が行われた。本誌に発表されたものを引用しておこう（本年第4号 p.3）。「審議される問題について発言した」幹部会メンバーは、「国家統計委員会の活動の評価で一致をみた。事業は望ましい方向で進み、肯定的な変化があり、最高会議と政府は、好ましく良質の情報を得ている。」かつての連邦の統計とロシアの統計は、まだこのような評価を受けたことはなかった。むしろ逆である・・・。

そして、統計、その評判、「イメージ」にとってきわめて重要なのは、最高会議幹部会の決定のなかで、「・・・国家権力機関の圧力と地元優先主義の影響からの統計の独立性原則、さらに状況評価における科学的アプローチと職業モラル、これらの無条件の遵守、そして、国家統計の公表データの誤った解釈への反論」がはっきりと述べられていることであった。

統計はこれをどれほど長く待っていたことか・・・。

もちろん、統計機関の活動はまったく申し分ないということではないし、すべて望んだ通りにうまくいっているということでは決してない。しかし、統計がロシアの最高立法機関の支持を得たことは無条件に重要である。そして、多くの義務を負うことにもなる。

略年表 10世紀-1917年, 1917年-1993年

(資料は、イエ・ア・マシヒヌイが準備)

10-12世紀・・・課税対象、とくに諸公の租税と関連したいくつかの調査・統計情報の入手を示す古代ロシア国家の古文書。キエフ、ノヴゴロドにおける年代記の編纂。

12世紀・・・課税と関連し、ロシア国家の各地域で実施された人口調査に関するわが国最初の証明書（1136年のノヴゴロドのスヴァトスラフ・オリゴヴィッチ公の地方行政典範、1150年のスモレンスクのロスチスラフ・ムスチスラヴィッチ大公の地方行政典範など）。

12-15世紀・・・法律関係文書（特権許可状、契約書、地方行政典範、司法関係、宗教関係、その他文書）。

1245, 1255-1256, 1257-1258, 1273年・・・キエフ、チェルニゴフ、スズダーリ、ノヴゴロドの領地内のモンゴル人とタタール人の人口調査。

15世紀・・・ロシア国家の課税のための統計実務。

17世紀・・・大規模世襲領地における経営上の調査・統計活動の発生。

1619年・・・ロシア国家における第1回土地調査の実施に関する決定

1646年・・・ロシア国家の人口調査

1666年・・・小ロシアにおける各戸別経営一覧の作成

1678-1679年・・・ロシア国家の人口調査（各戸別・賦課単位別）

1710年・・・人口調査（各戸別・納税別）

18世紀初頭-19世紀前半・・・人頭税のための人口調査（頭割り課税）。1718年から1856年まで10回の調査が実施される。

18世紀・・・ピョートル大帝の時代における軍指令官と県知事を通じた、農業、鉱業、工業、その他に関する情報の税務庁による収集（散発的）。

18世紀-19世紀前半・・・個人経営調査の実施

1732年・・・宮廷農民の各戸別一覧

1840年・・・農家の各戸別調査をとまなう南西ロシアの地主領地の一覧

1840-1860年・・・国有地農民の経営を考慮した国有財産庁の「評価」作業地主による農奴調査

1861年改革と関連した地主領地に関する情報収集（6巻）など

1765年・・・自由経済協会の設立

1767-1769年・・・ルミャンツェフの総合古記録

18世紀-19世紀初頭・・・ロシアで、統計・地理記述の方向での統計思想の発展（イ・カ・キリロフ、ヴェ・エヌ・タチシェフ、エム・ヴェ・ロモノーソフ、イ・ア・ゴリツィン、カ・イ・アルセニエフ、イ・イ・ゴリコフ、エス・イ・プレシエフ、エム・デ・チュルコフなど）。

1802年・・・ロシアで、国家による統計情報収集に関する規定法および省の編成

1804年・・・科学アカデミーで、統計学講座設置

1805年・・・中学校で、統計学の教授導入

1806-1808年・・・カ・エフ・ゲルマン、『統計雑誌』刊行

1807-1809年・・・『政治・統計・地理学雑誌、または現代世界史』

1809-1830年・・・『歴史・統計・地理学雑誌』

19世紀初頭・・・ロシアで、通常の状態統計を組織する試み（1802年、内務大臣ヴェ・ベ・コチュベイが、統計情報を所定の形式で提出するよう県知事に指示）

19世紀初頭・・・統計の理論と方法論の一層の発展（カ・エフ・ゲルマン、ヴェ・エス・ポロシン、デ・ペ・ジュラフスキーなど）

1811年・・・警察省管轄統計部の設置（カ・エフ・ゲルマンが指導）

1823年・・・警察省から内務省へ統計部の移管

1834年・・・県統計委員会に関する規定

1835年・・・統一度量衡制度に関する規定

1843年・・・内務省統計部の統計委員会への改編に関する決定採択される。1852年に、中央統計委員会（ЦСК）に改組

1847年・・・デ・ア・ミリューチン、『軍事統計の最初の試み』

19世紀60年代・・・刑事統計の分野で、きわめて重要な著作著される（ア・エム・フィリップフ、エム・イ・オルロフ、エヌ・ア・ネクリュドフ、エフ・ペ・アヌチンなど）

1863年・・・内務省統計会議の設置および統計機関に関する新規定

1864年・・・司法改革、その後、法務省、『刑事問題に関する統計情報全書』発刊。後に、イエ・エヌ・タルノフスキー、イ・ヤ・フォイニツキー、エム・エヌ・ゲルネットゥなどが、これらの全書の文書のなかで刑事統計、犯罪分析に関する業績をつくる。

1866年・・・内務省、『中央統計委員会紀要』発刊（1866－1903年）

1870年・・・内務省中央統計委員会議長、政府機関統計家大会を組織

1871年・・・サンクト・ペテルブルクで国際統計会議

1875, 1876, 1882, 1891, 1905－1908, 1912年・・・軍馬調査（合計9回）

19世紀70年代－1910年・・・市庁管轄の統計ビューロー（部）設置

1877, 1878, 1881, 1887, 1905, 1907年・・・中央統計委員会、土地所有調査を実施

1881, 1890, 1910年・・・ペテルブルクで、都市人口調査（住宅を含む）（ユ・エ・ヤンソンがペテルブルク都市自治統計ビューロー（部）長）

1882年・・・モスクワ人口調査

1882年・・・モスクワ法律協会統計部の設置（議長ア・イ・チュプロフ、書記エヌ・ア・カブルコフ）

19世紀80年代・・・ゼムストヴォ調査の発展（ヴェ・イ・オルロフ、ヴェ・イエ・ポクロフスキー、ペ・ペ・チェルピンスキー、エフ・ア・シェルビナ、エス・エヌ・クリフチェンコ、ア・ア・ルソフ、ヴェ・イエ・ポストゥニコフ、ペ・ペ・ルミャンツェフ、エヌ・ア・ブラゴヴェシエンスキー、エヌ・エフ・アンネンスキー、ヴェ・ヴェ・ドクチャエフ、エス・ア・ハリゾメノフ、ア・エム・ストパニ、エス・ペ・セレダ、エス・ア・コロレンコ、ゲ・ゲ・ロトゥミストゥロフ、エス・エヌ・ベレツキー、イ・エム・ボグダノフ、ゲ・イ・バクシン、ヴェ・ヤ・ザヴォルジスキー、エヌ・エヌ・ロマノフ、ア・エフ・フォルトゥナトフ、エル・エム・オルジェンツキーなど）

19世紀80年代・・・民間経営組織の統計作成。定期的に召集されるロシアの各部門企業家（ウラル鉱業家，バクー石油採取業者，精糖業者，皮革工場主など）大会の大会会議付属常設執行機関のもとに統計ビューロー設立

1884年・・・国家財産省，カフカスの農家調査を開始

1887－1917年・・・社会团体（ア・イ・チュプロフが指導するモスクワ法律協会，全ロシア・ゼムストヴォ連合，ロシア自然科学者・医師協会，ロシア自由経済協会統計委員会，モスクワ大学付属ア・イ・チュプロフ記念協会ゼムストヴォ統計問題委員会，全ロシア都市ゼムストヴォ連合経済部），統計家大会（会議）を開催。全部で17の大会（会議）が開かれる。

1887年・・・国家財産省，シベリア住民の土地利用調査を開始

1888年・・・『ロシア帝国統計紀要』発刊

1897年・・・ペテルブルグで，国際統計研究所会議

19世紀後半－20世紀初頭・・・ロシア統計理論思想のすぐれた著作の執筆（ユ・エ・ヤンソン，ア・イ・チュプロフ，ア・ア・カウフマン，ア・ア・チュプロフなど）。数理統計の発展（ペ・エル・チェビシエフ，ア・ア・マルコフ，ア・エム・リャプノフなど）

19世紀後半－1916年・・・地方人口調査の実施（市，州，県）

1900－1905年・・・『国民経済』誌

1900，1908，1912年・・・工業調査（責任者，ヴェ．イエ．ヴァルザル）

1905年・・・中央アジアで，移住庁の統計作業

1905年・・・商工業省，ロシアにおけるストライキ統計の公式データ（ヴェ．イエ．ヴァルザルが収集）の公表開始：『1895－1904年の10年間における作業場および工場での労働者のストライキに関する統計情報』と『作業場および工場での労働者のストライキ統計』（1905年と1905－1908年の）

1906年・・・モスクワ都市自治統計部，『モスクワ市統計年報』発刊

1910年・・・作付面積調査，軍馬調査，農業機具調査の実施

1912－1914年・・・統計ビューロー（工業・商業企業家大会会議の部局），『工場企業と商業に関する統計年報と便覧』刊行

1914年・・・ア・イ・チュプロフ記念協会統計部，『統計通報』発刊

1916年・・・農業調査

1917－1993年

1917年・・・農業および土地調査

1917年（12月）・・・1917年全ロシア農業調査の資料作成プログラムを検討するために，農業人民委員部調査部，第1回統計家会議を召集

1917年・・・全ロシア国民経済会議（BCHX）調査・統計部，設立される（1918年には，全ロシア国民経済会議・総管理局のなかに統計部が設立され，そ

の後、1923年に全ロシア国民経済会議・中央調査統計局（部）に統合される）。
1932年の全ロシア国民経済会議の廃止にともない、通常の工業統計は、人民委員部に移される（その後、省に）。

- 1918（6月）、1919、1922、1926年・・・全ロシア（最後のは全ソ）統計家大会（4回）
- 1918年（6月）・・・国家中央統計・計画（全ロシア統計家大会が作成）の組織案の検討委員会設置に関する決定
- 1918年（7月）・・・国家統計に関する人民委員会議（CHK）法令（規定）。これにより中央統計局（ЦСУ）の設置が規定された（初代局長、ペ。イ。ポポフ）
- 1918年・・・中央執行委員会（ЦИК）付属委員会と人民委員会議付属委員会、モスクワのソビエト機関職員の調査を実施
- 1918年・・・第1回中央統計局統計会議の決定
- 1918年（9月）・・・『地方統計機関の編成に関する規定』承認。これをもとに、国の県および県と同等の郡と市に統計ビューローが設置される。
- 1918年（9月）・・・『中央統計局付属統計問題会議に関する規定』承認。
- 1918年・・・統計調査の組織計画と中央および地方での統計資料作成計画を含む、統計事業の最初の国家総合計画（中央統計局が毎年作成）
- 1918年・・・中央統計局付属国家統計問題会議、設置
- 1918年（10月）、1920、1921、1922、1923、1924、1925年・・・全ロシア（最後の2回は全ソ）統計会議（7回）
- 1918、1939、1944、1950、1959、1967、1971年・・・国民経済および工業の部門分類（第1回目部門分類は、『製造業、採取業およびその他労働部門の部門分類』の名称で1919年に公表）
- 1918年・・・全ロシア工業調査、それと同時に、工業企業の労働者・職員の職業調査
- 1918-1922年・・・労働者、農家、住民の食事について最初の抽出調査を実施
- 1918-1929年・・・『労働統計』誌
- 1919年（1月）・・・国家通常工業統計に関する人民委員会議法令（規定）
- 1919年（5月）・・・工業統計の問題に関連した情報の工場企業による提出に関する人民委員会議法令
- 1919-1929、1949年-現在まで・・・『統計通報』誌
- 1919-1920年・・・20の県における軍馬調査（1923-1925年には、いたるところで）
- 1919、1920年・・・農業調査の実施開始
- 1919年（7月）・・・農村住民の作付面積調査に関する人民委員会議決定
- 1919-1926年・・・『中央統計局報告』

- 1919, 1920, 1923年・・・工業調査の実施（1926年からは、この調査に代わり、年間の統計用紙による本格的な工業調査が実施され、1930年からは、企業の年間報告をもとに工業調査が行われる）
- 1919年・・・キエフで、ソ連邦科学アカデミー人口研究所を設立
- 1920年（4月）・・・工業企業小規模調査をとまなう、人口・職業、農業調査に関する人民委員会議法令
- 1920年（5月）・・・義務的ロシア連邦統計能力調査に関する勤労防衛会議（CTO）決定
- 1920-1927年・・・『中央統計局論集』発行
- 1920-1927, 1929年・・・農家の動態調査（大規模プログラム）
- 1920年・・・ロシア連邦人口調査
- 1920年（11月）・・・人民委員部とその下部組織の活動に対する通常の統計調査の編成に関する人民委員会議法令
- 1920年（12月）・・・赤軍と赤色海軍についての調査資料の緊急作成に関する勤労防衛会議決定
- 1921年（5月）・・・統計事業統一計画に関する全ロ中央執行委員会および人民委員会議法令
- 1921-1925年・・・農家の動態調査
- 1921年（10月）・・・勤労防衛会議のための報告および図表の問題に関する勤労防衛会議決定
- 1922年・・・モスクワ市のソビエト機関職員調査
- 1923年・・・都市商業調査
- 1924-1928年・・・『市況・商品運輸統計』誌
- 1924-1926年・・・『中央統計局中央評価委員会公報』
- 1925年・・・第1回社会主義工業固定フォンド再評価
- 1925-1926年・・・小工業・手工業の統計調査。副次的な小工業企業の調査が、これ以降1953年まで毎年、1954-1962年には5年に2回行われた。1953年からは、これらの企業の事業情報は、加入する機関の年次報告に含まれる
- 1925-1933年・・・確率論と数理統計の分野で、ア・エヌ・コルモゴロフとア・ヤ・ヒンチンの業績
- 1926-1930年・・・相関論と大数法則の作用メカニズムの分野で、ヴェ・エム・ヤストゥレムスキーの業績、平均・指数論の分野で、ア・ヤ・ボヤルスキーとヴェ・エヌ・スタロフスキーの業績
- 1926年・・・中央統計局の再編、中央統計局管轄のすべての庁の統計事業を指導するために委員会（スタトゥプラン）設置

1926, 1937, 1939, 1959, 1970, 1979, 1989年・・・全ソ国勢調査
1926-1930年・・・ソ連邦中央統計局実験統計・統計方法論研究所（所長、ヴェ・エム・オブホフ）
1926年・・・中央統計局地方下級自主通信局網，地方統計機関に代わる
1926年・・・『統計の諸問題』誌
1927年（2月）・・・全ソ統計会議
1927年・・・全ソ学校調査
1927年・・・中央統計局の機構で，統計作業の機械化開始
1920年代後半-1930年代初頭・・・共産主義アカデミー付属統計家・マルクス主義者協会
1927-1929年・・・『農業経済・統計ビューロー紀要』
1927-1930年・・・『統計展望』誌
1928-1932年・・・1928年から1930年の国民経済バランス作成
1927-1930年・・・ロシア連邦中央統計局（後， Gosplan）週刊新聞『ソビエト統計』
1928-1929年・・・『景気研究所経済ビュレティン』
1928-1929年・・・『通常取引統計資料』誌
1928-1929年・・・ソフホーズ・コルホーズ全面調査
1929年・・・第1回科学機関基本調査実施
1930年・・・倉庫業調査
1930-1934年・・・レニングラードに，ソ連邦科学アカデミー人口研究所
1930, 1963年・・・第1回，第2回全ソ保健機関・医療人員調査
1930年・・・中央統計局とソ連邦Gosplanの合併，中央統計局はGosplan国民経済調査部に改組，1930年10月から，当部はGosplan付属中央国民経済調査局に改組される。
1932, 1934, 1935-1938, 1940年・・・家畜調査
1932年・・・地区と市に，国民経済調査の検査職を設置
1932年・・・設備・機械調査
1932年・・・商業要員・小売網調査
1932年・・・モスクワ国民経済調査研究所（その後，モスクワ経済統計研究所に改編）とヴォロネジ国民経済調査研究所（その後，廃止）設置される。
1932年・・・ソ連邦Gosplan付属中央国民経済調査局『ソ連邦国民経済調査指標体系作成のための資料』（作成される統計指標体系の最初の完全な説明書（統計報告・統合表の形式を含む））を发表
1933-1935年・・・視覚統計研究所

- 1933年・・・全ソ公共食堂企業調査
- 1934-1939年・・・統計年報『ソ連邦社会主義建設』公表
- 1934年・・・工業設備調査
- 1934年・・・全ソ図書館調査
- 1934, 1935, 1936, 1939年・・・ Gosplan 付属中央国民経済調査局統計年報『ソ連邦社会主義建設』
- 1935, 1949年・・・全商業調査
- 1939年・・・モスクワ学者会館統計部, 活動開始(初代議長, エス・ゲ・ストゥルミリン)
- 1941年・・・中央国民経済調査局, ソ連邦 Gosplan 付属中央統計局に改組
- 1941-1945年・・・100を超える全ソ緊急調査の実施
- 1948年・・・ソ連邦閣僚会議付属中央統計局を設置(後に, ソ連邦中央統計局)
- 1948年・・・統計専門の出版所(Gosstatizdat)設立, 1964年, 出版所『統計』に改革, 1981年, 出版所『財政』に統合
- 1954, 1960, 1973年・・・『ソ連邦閣僚会議付属中央統計局(ソ連邦中央統計局)およびその地方機関に関する規定』
- 1954年・・・科学アカデミー, 中央統計局およびソ連邦高等・中等専門教育省, 統計の理論的諸問題に関する学術会議を設置
- 1956-1986年・・・『ソ連邦科学アカデミー統計学術報』50巻の刊行, ヴェ・エス・ネムチノフのイニシアチブで開始
- 1956年・・・ソ連邦中央統計局, 統計年報『ソ連邦国民経済統計』発刊
- 1956年・・・1959, 1966, 1973, 1978, 1983, 1988年について, 主要な対比価格指標によるコメコン(CEB)諸国の国民経済発展の国際比較, コメコンの枠内で実施
- 1956, 1960, 1962年・・・コメコン加盟国中央統計機関の指導者会議
- 1957, 1968, 1977年・・・ソ連邦中央統計局, 全ソ統計家会議を召集
- 1960年・・・ソ連邦総合在庫調査・全固定ファンド再評価(コルホーズは1年後)
- 1962年・・・コメコン常設統計委員会の設置(1980年以降は, 統計領域での協力のためのコメコン常設委員会に改称)
- 1963年・・・ソ連邦中央統計局, 計算センター・経済情報システム設計研究所を設立(所長, ア・ヤ・ボヤルスキー), 1985年, 統計研究所に改称
- 1964年・・・コメコン常設統計委員会, 『コメコン加盟国の統計に関する方法論上の基本規定』作成・発表(1980年, 当規定は2編構成で第4版が出版される)
- 1966, 1991年・・・統計教科書改善の諸問題に関する学術会議(ソ連邦とウクライナ共和国の高等・中等専門教育省, ソ連邦, ロシア共和国およびウクライナ共和

国の中央統計局，ソ連邦印刷委員会)

- 1971年・・・ソ連邦中央統計局，調査・計算作業の機械化のための全ソ国家設計技術研究所（В Г П Т И）を設立（所長，オ・ヴェ・ゴロソフ），1985年，全ソ国民経済調査・報告機械化研究所に改称
- 1972年・・・ソ連邦中央統計局，国家統計自動化システム（А С Г С）による1600の地区と市の情報計算ステーション（Р И В С と Г И В С）を設置
- 1980年・・・統計理論と実践の改善の問題に関する全ソ学会会議（ソ連邦とウクライナ共和国の高等・中等専門教育省，ソ連邦とウクライナ共和国の中央統計局，ソ連邦国家出版委員会）
- 1985年・・・統計の規則，プログラム，専門法令集の採用を含む，ソ連邦中央統計局の国家統計自動化システム（А С Г С）設置のための3期にわたる事業が完成
- 1991年・・・国際的方法に準拠したロシア統計報告の導入に関するロシア連邦大統領令
- 1991年・・・1991年11月18日付ロシア共和国最高会議幹部会決定「ロシア共和国領内での国家統計活動の改善について」。この決定にもとづき，ソ連邦国家統計委員会のあらゆる物的技術的基盤がロシア共和国国家統計委員会に移譲される。
- 1991年・・・ソ連邦の解体と独立国家共同体（С Н Г）の成立の後，12月30日のこれらの国々の首脳会議において統計委員会設置の決定が採択された（С Н Г加盟国の統計業務調整のため）。1992年2月のС Н Г各国首脳会議で，この委員会が承認された。同時に，С Н Гの統計業務の指導者会議が設置され，当会議は「統計委員会と学術方法論会議」に関する決定を採択する。
- 1992-1993年・・・国連の国際比較プログラムにもとづき，1993年のロシア国内総生産の比較を実施。
- 1992年（1月）・・・市場経済の発展の要請に対応する，国際的な実践で採用される調査・統計制度へのロシア連邦の移行プログラムを作成するよう最高会議が依頼。国家統計委員会，最高会議が検討した1992-1995年の関係プログラムを採択。
- 1993年（3月）・・・ロシア連邦閣僚会議，経済改革の進展を評価するための新たな指標体系（国家統計委員会が他の庁とともに準備）の導入に関する決定採択。
- 1993年・・・（ロシア科学アカデミー）新自由経済協会を設立

簡単なポートレート

（ペ・ゲ・プロシコ，イ・イ・エリセエヴァ著『統計史』モスクワ，財政と統計，1990年から作成。この概観では，紙幅の制約から統計の発展に貢献したすべての研究者に言及することはできなかった。）

〔わが国の研究者〕

イ・カ・キリロフ（1689－1737）・・・最初のロシア統計経済展望を準備。

ヴェ・エヌ・タチシェフ（1686－1750）・・・人口調査の組織に関するロシアで最初の学術書の著者。

エム・ヴェ・ロモノソフ（1711－1765）・・・『ロシア・アトラス』を準備し、1760年、ロシアの各地域と国全体を特徴づける統計データ集用に『学術アンケート』を編集。同時に、アンケートの記入の仕方についての説明書をも執筆。

ア・エヌ・ラジシェフ（1749－1802）・・・農業、経済、貿易、人口、司法の統計のプログラムを立案し、ロシアに良心的統計の基礎を置く。

デ・ベルヌリ（1700－1782）・・・確率論に基礎を置きながら、住民全体と天然痘にかかりにくい住民の平均寿命を計算し、定常人口仮説に立った計算を行なった。

ヴェ・エル・クラフトゥ（1743－1814）・・・人口統計が統計データに突きつける要求をまとめ、出生・死亡指標体系を作成し、人口増加の合法則性を調べ、人口増加期間、とりわけ、住民が倍増する期間の計算公式を導く。

イ・エフ・ゲルマン（1755－1815）・・・国内で統計を組織することがいかに必要か、人口の統計調査はどのようにあるべきかを調査し、全国家統計の中央集権的編成に賛成した。人口統計に関しては、調査用の専門のデータカードの使用を提案、危機一髪論を提出し、一時的不在者を特別に見積る現在人口の算定、冬季における人口調査の実施をすすめた。

カ・エフ・ゲルマン（1767－1838）・・・統計調査の実践を根拠づける特殊な学問としての統計理論の支持者。「統計は、計算されるすべての対象を数字で提示するように努め、うまく並べられ描かれたその表によってのみ評価されうるのである。」彼は、統計の機能を諸要素の単純な記録とはみず、その一般化や分析とみる。ゲルマンは、統計的認識の主要原則のなかでも、データの信頼性を強調した。

ヴェ・イエ・ヴァルザル（1851－1940）・・・ロシア工業統計の創始者、初期の2度の工業調査（1900、1908年）の発起人であり指導者。

ペ・エル・チェフィシェフ（1821－1894）・・・見解を同じくする者とともに、ロシア確率論学をつくる。チェフィシェフは確率論の限界定理を証明し、一般的な形で大数法則をまとめた。

ユ・エ・ヤンソン（1835－1893）・・・統計の主要目標は因果関係の解明、このときの主な困難は研究される現象の原因を探し出すことで、この点で確率論はあまり役に立ちえない。

ア・イ・チュプロフ（1842－1908）・・・統計観察理論の開発、連結表作成のためのゼムストヴォ統計の実践の理論的総括、人口調査理論の開発。

ア・ア・チュプロフ (1874-1926)・・・ロシアのみならず外国人においても、統計の発展において絶大な影響を与えた、最も偉大な統計理論家。

他のあらゆる学問の成果をまとめ、彼は独自の科学的認識方法としての統計学の意義を強調する。チュプロフは次のように述べた。「人類思想の将来の歴史家は、19世紀末から20世紀初頭というわれわれの時代を見回して、統計形態をとろうとする科学的認識の欲求を、その特徴として指摘するであろう。人類の思想が、個々の現象を目で追うことを拒み、総体的な結果に、合計あるいは平均に集中するような、そういった領域が年々拡大する。近代科学の発達、大量現象への関心を基本的特徴として進み、統計的な認識形態がその影響を及ぼさないような学問の領域はやがて消え失せるということは、誇張なく語れるのである。」

エヌ・ア・カブルコフ (1849-1919)・・・統計的結論は、ありうるというだけで、決して確かということではないと常に指摘した。彼は次のように述べる。「このことから・・・数学的分析をそれに使用してはならないということにはならない。」(エヌ・ア・カブルコフ著『統計学教程』モスクワ、1911年、p.180)確率論は、データの正確性を失わせるものではなく、逆に、誤差の範囲を示すことで、まさにその正確性を強調するのであるからだ。彼は、統計の目的を、あれこれの諸要素の結果への影響の測定とみなした。

エル・エム・オルジェンツキー (1863-1923)・・・統計は総合的な特徴により区別される集団に関する科学である、という見解を主張した。集団の形成やグループ分けを分析の構成要素とみなし、分析に最優先順位を置いた。ユ・エ・ヤンソンやア・イ・チュプロフとは異なり、まさにそのことにより、オルジェンツキーは観察段階を統計作業とは認めなかった。

ア・ア・カウフマン (1864-1919)・・・統計を方法としてだけでなく、すべての社会科学およびその他多くの科学の召使として定義した(カウフマン、ア・ア・『統計の理論と方法』モスクワ、1916年、p.15)。同時に「統計は数学ではない。それは独自の課題と独自の研究手法を有する」ということを彼は強調した(同上、p.15)。

ア・エフ・フォルトゥナトフ (1856-1925)・・・農業統計および関連科目を研究したすべての学者達に大きな影響を与えた『ヨーロッパ・ロシアの農業統計』の著者。

エヌ・テ・コンドゥラチェフ (1892-1938)・・・読みの深い分析家。全民族の悲劇(荒廃、大量飢餓)となった戦時共産主義の教訓をはっきりと学び取った。彼を長とする景気研究所は、国民経済発展の代替概念を持っていた。景気の長期波動論の考案者。

エヌ・エス・チェトゥベリコフ (1885-1973)・・・指数法に関するロシアで最初の論文の著者。

エス・ゲ・ストゥルミリン (1877-1974)・・・わが国の統計において、初めて総和指数を作成した(1918年)。

イエ・イエ・スルツキー (1880-1948)・・・相関論に関するロシアで最初の著作の1

つの著者。

ペ・エス・ヤストゥレムスキー（1877－1962）・・・動態統計分析論の著者

エム・ペ・プトゥハ（1884－1964）・・・ロシアでの死亡に関する民族差を研究したわが国最初の研究者の1人。

ア・ペ・チャヤノフ（1888－1937）・・・「勤労農民」思想の宣伝家。著書『農業協同組合の主要思想と組織形態』のなかで、次のように述べた。「農業協同組合の仕事は、彼ら農民の仕事であるということを、彼らを感じ、知り、慣れることが必要なのであって、この仕事も、企業だけによるのではなく、真に巨大な社会的運動によることが必要なのである。」

ペ・エス・ネムチノフ（1894－1964）・・・統計学を方法論の科学とする見解を擁護し、指数による分析法について、3つの課題（動態分析、現象の構造分析、諸要素の影響度分析）をまとめた。